

平成30年度第5回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 平成30年9月25日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 市立病院5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介
理 事 黒田 啓史, 半場 江利子, 位高 光司, 能見 伸八郎, 木村 晴恵
監 事 中島 俊則
事務局 阿部経営企画局次長, 長谷川担当部長, 大島担当副部長, 榎木担当副部長,
濱口経営企画課長, 石田総務担当課長, 桑原管理PFI担当課長, 北川京北
病院事務長

1 開会

2 議事

(1) 月次収支（7月・8月）報告

資料1に基づき、阿部経営企画局次長から説明

- 平均在院日数の短縮化等から、全職員で頑張っていたということが分かる。手術件数の増加については、周術期統括部門を設置したことが影響しているのか。
→ 周術期統括部門を設置し、統括部長を中心に手術枠を管理することによって全身麻酔や局所麻酔の手術が増加した。また、7月から疼痛管理科が機能したことも大きい。
- 京北病院の一般病床利用率が低い。
→ 新入院患者は多い月であったが、退院患者がそれ以上に多かった。
- 7、8月が過去最高の収益となった理由は何か。
→ 整形外科で、高難度な手術が多かったことが挙げられる。引き続き、体制を整えて秋以降も臨む。救急についても、最悪の状況からは脱したが、より多くの救急患者を受け入れられる体制を整えていく。
- 収益が向上したことは喜ばしいことであるが、それに伴うスタッフの負担も考えて対策をしていただきたい。
京北病院での訪問診療件数について、何人で訪問しているのか。また、非常に多く訪問していただいております。評価するべきである。
→ 基本的に医師1人で訪問している。1日に行くことができる訪問件数は限られているが、引き続き訪問診療・訪問看護を実施していきたい。
- 京北病院の入院、外来についての新規患者数獲得に向けた取組について教えていただきたい。
→ 毎日、入院が必要な方がいるかについて施設に電話を行う等している。外来においては、訪問診療、訪問看護も行っているため、バランスをとるのが難しい。
- 救急の実績が伸び悩んでいるか。
→ 市立病院の救急機能強化に向け、引き続き院内で議論し、対策を講じているところである。

(2) 月次収支（7月まで）報告

資料2に基づき、阿部経営企画局次長から説明

- 6月の給与費が高い理由はあるのか。また、7月の減価償却費が減少した理由は何か。
→ 6月に法定福利費が決定したので反映している。減価償却費の減少については、ダヴィンチの償却が終了したことが挙げられる。

(3) 京都市立病院及び京北病院における台風 21 号に伴う被害について

資料 3 に基づき、長谷川事務局管理担当部長から説明

- 京北病院の空調機の故障について、早期の復旧を望む。非常用発電機について、定期的に点検を実施しているのか。
→ 市立・京北ともに定期的に行っている。

(4) その他

- ・ 院内保育所「青いとり保育園」元保育士からの訴訟に係る上告報告結果について報告した。

3 閉会